

トクエジプロジェクト 地域活性化プロジェクト 第2弾 北海道洞爺湖サミット

春の盛りを迎えた東京から一時間三十分。南千歳空港から特急北斗8号に乗って洞爺湖町を目指す。4月上旬の北海道は、冬の衣の裾からやっと芽を出したふきのとうが、ちらほらと地面に顔を出していた。

北海道洞爺湖町



G8 HOKKAIDO TOYAKO SUMMIT



海と山と湖、 そして生きる山・有珠山

洞爺駅で降りると、駅からまっすぐに伸びる道がある。

耳を澄ますと波の音が聞こえる。風にのって潮の香りも運ばれてくる。奥のほうに、波のはなが見える。

北海道の中でも温暖な気候で知られる「洞爺湖町」は、二〇〇六年三月二七日に噴火で、洞爺湖に面する虻田町そして湖に面する洞爺村の二町村の合併により誕生した。平成の市町村大合併のうち道内では最も小さい面積の合併

だつた。

「合併によつて、得るものは大きかつたんですよ」洞爺湖町長の長崎良夫さんは語る。

「もともと、洞爺湖の側で暮らしているという共通認識があつたから、合併することに問題はなかつたんです。私たちの町は海からの恵みである海産物と山からの恵みである農産物、そして火山からの恵みである良質な温泉を手に入れたんです。海から湖までたつたの四キロ。その中間に有珠山。優れた地勢と景勝

地がある。こんな自然に恵ま

れた場所はそうそうないで

しょう

午後のやわらかい日差しが入る応接室から見える穏やかな海には何隻も船が並んでい

る。いまの季節の洞爺湖町はちょうどホタテの養殖業のピークだ。

「去年、噴火でダメになつた国道二三〇号線の復旧作業が終わつたんです。国や道も協力してくれて、七年かかつてやつと完了した。ここ三〇年

の生きた山なんですよ」

噴火、そしてその後

二〇〇〇年三月三一日、午後一時十分頃、二二年七か月

ぶりに有珠山が爆発した。町には火山灰が積もり、余震の影響で地面はひび割れ、あたり一帯に硫黄の匂いが立ち込めた。美しかった洞爺湖には熱泥流が流れ込む。海側の虻田町ではホタテ貝の養殖作

業にとりかかれず、たくさん人が一時的に仕事を失つた。本当に、噴火で打ちのめさ

れた気持ちになつたと思いま

す。犠牲者は出なかつたもの、町民の九七%が他の町や市に避難した。避難から戻つて、みんなで復旧に力を注いで、やつと国道の復旧作業が完了した時期に、この町でサ

ミットが開催されることが決まりました。これはここに暮らすみんなにとつてとても意義のある出来事でした。でもね、ほらこの辺りの人はちょっと照れ屋でおとなしいところがあるでしょう。復興作業の途中にあつて、自分たちの生活も含め、これからどんな状況

